

農業に人を呼び込む

農業現場の雇用者確保～現状と課題



農業と雇用について意見交換する西原氏（左）、井下氏（中央）、徳江氏（右奥）。右前は高橋局長

十勝毎日新聞社は農業関係者を集めた恒例の農業座談会を3月22日、帯広市内の本社で開いた。管内の畑作、酪農の経営者と社会保険労務士の3氏が、「農業現場の雇用者確保～現状と課題」をテーマに討論した。農業界も他業種と同様に人手不足が課題となっている。労働環境の整備や従業員のモチベーション向上、マネジメントの方法などを探った。（文中敬称略）

【出席者】

西原 正行氏（52） 畑作、西原農場（上士幌町）代表

1963年上士幌町生まれ。上士幌小、上士幌中、82年帯広農業高を卒業。家業の西原農場を継ぎ、2000年から西原農場代表。15年から全十勝地区農民連盟委員長を務める。

井下 英透氏（57） 酪農、Jリード（豊頃町）代表

1958年豊頃町生まれ。豊頃大津小、大津中、帯広三条高を経て、81年酪農学園大卒後、家業の酪農業を継ぐ。2005年に近隣酪農家4戸と農事組合法人Jリードを設立し代表に就任。

徳江 孝一氏（63） 社会保険労務士、徳江労務行政事務所（帯広市）

1953年帯広市生まれ。帯広明星小、帯広第四中、帯広三条高、77年同志社大卒。民間企業などを経て95年に徳江労務行政事務所を設立。社会保険労務士、行政書士、ファイナンシャルプランナー。

【司会】 **高橋 幸彦** 十勝毎日新聞社編集局長

（座談会は、十勝毎日新聞2016年4月2日付、農業ガイド1051号に掲載）